

平成30年度フロンティア・アドベンチャー

「やまなし少年海洋道中」事業報告

事業概要

今年で31回目を迎え、新たな1歩を踏み出したフロンティア・アドベンチャー「やまなし少年海洋道中」は、平成30年7月31日からはじまりました。当初8月8日までの9日間、東京都八丈島におけるキャンプ生活を予定していましたが、台風13号の発生・接近にともない、2日間短縮した7日間という日程に変更し、全日程を終えることができました。

八丈島の小中学生との交流会、漁業体験、スノーケリング、1泊2日で八丈島各地を巡るサバイバル踏破など、参加した48名の中学生はさまざまな体験活動をとおして多くのことを学び、さらに大きく成長することのできた7日間となりました。

出発式（7月31日）



1日目。防災新館1階「やまなしプラザオープンスクエア」で行った出発式では、参加者代表が「山梨では経験できない海での生活を9日間にわたり八丈島で送ります。このような経験をさせてくださる方々に感謝し、仲間とともに、協力し、たくさん楽しみ、そして学び、たくましく成長して帰ってきます」という誓いの言葉を述べました。多くの方々の見送りを力に変え、2台のバスは東京竹芝桟橋へ向かい、係・班での最終ミーティングを行ったあと、「橘丸」へ乗船しました。

八丈島到着（８月１日）



２日目。約１０時間の船旅で乗り物酔いした参加者もいましたが、比較的穏やかな海の旅でした。気持ちの良い朝日の下、朝のつどいを行いました。海に目をやるとすぐそこに八丈島が確認できました。そして、予定どおりの時刻に八丈島底土港に到着しました。今年も八丈町教育委員会をはじめ、多くの島民の方々が、私たちを温かく迎えてくれました。歓迎セレモニー終了後、朝食を食べ、力を蓄えました。本当に気持ちよい快晴の下、垂戸ベースキャンプ（以後ＢＣ）へ徒歩で移動しました。

テントアップ（８月１日）



ＢＣ到着後、全員でテントアップを行いました。これから自分たちの生活の場となる家をみんなで協力しながら作り上げました。どの班もボランティアリーダー（以後ＶＬ）の指示をよく聞きながら、お気に入りの場所を選び、テントを立てていました。事前研修会をよく思い出しながら協力して作業を進めていました。また調理のためのかまど作りも行いました。多くの作業であったにも関わらず、作業を時間内に手際よく終えることができたことは、班としての大きな自信となりました。

開村式（8月1日）



無事にテントアップを終えた後、八丈町教育委員会の皆様にもご参加いただき「開村式」を行いました。各班の班長がそれぞれ「友情・奉仕・連帯・開拓・交流」に基づいた、決意表明をしました。八丈町教育委員会佐藤誠教育長・竹野団長の話を聞き、この「やまなし少年海洋道中」でのでっかい体験をとおして、一人ひとりが今まで以上に大きく成長することをあらためて胸に誓いました。

野外炊事（8月1日）



少し暗くなりはじめた頃、八丈島に来て初めての野外炊事を行いました。テントアップのときに作った自家製かまどを使って調理しました。うまく火がおこせた班、おこせない班、さまざまでしたが、みんなで苦労して作った塩焼きそばの味は格別で、初日の食事は大成功でした。どの班もおいしく食べることができ、多くの笑顔がこぼれ、大満足の夕食でした。

八丈島の小中学生との交流会（8月2日）



3日目。午前中は八丈町の小中学生を迎え、初めての交流会をしました。はじめにお互いの緊張をほぐすためにアイスブレイクを行いました。気持ち良い青空の下、お互いの距離が少しずつ縮まっていきました。その後はテントサイトで、自分たちだけの班旗作りと昼食会のチキンカレー作りを協力して行いました。楽しく過ごした時間は山梨の参加者にとっても、八丈の小中学生にとっても、大きな宝物となりました。

スノーケリング1回目・星空観察（8月2日）



この日の午後は、底土海岸へ移動し、待ちに待った1回目のスノーケリング実習を行いました。事前研修会の実習を復習しながら行いました。もっと時間が欲しい、と思えるぐらい楽しい時間を過ごしました。

この日の夜は、星空観察を行いました。地面に敷いたダンボールに寝そべて、最高の星空を観察することが出来ました。

漁業体験活動「漁業観察」（8月3日）



4日目。朝から神湊港へ移動し、漁船でのクルージング体験をしました。参加者のほぼ全員が初めての体験でした。どこまでも続く空と海の青い景色。そして心地よい風が最高でした。ウミガメやトビウオが飛んでいる姿を間近で見ることのできた班もあり、山梨では決して体験できない時間を過ごしました。

漁業体験活動「くさや工場見学・体験」（8月3日）



次に、神湊港近くにある「くさや工場」の見学をさせていただきました。くさや特有のにおいが漂うなか、ムロアジを「さばくグループ」と「試食をするグループ」に分かれて体験しました。くさや独特のにおいで、はじめこそ敬遠する参加者も見られましたが、食べてみると新鮮な魚を使ったくさやは、こんになにも美味しいのか、と感動していました。